

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点
 「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2020年度 国際共同研究成果報告書〔研究設備・資源活用型〕

2021年 月 日 提出

1. 研究課題名	
京都の町並み変化に関する地域学習支援システムに関する研究 (英文課題名) A STUDY ON REGIONAL LEARNING SUPPORT SYSTEM FOR THE CHANGES OF TOWNSCAPE OF KYOTO	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな) まえざき しんや	所属機関・職名
高橋 彰 (たかはし あきら)	大阪大学 特任助教(常勤)
3. 研究分担者 (合計: 名)	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
矢野桂司 (やのけいじ)	立命館大学 教授
河角直美 (かわすみなおみ)	立命館大学 准教授
井上学 (いのうえまなぶ)	立命館大学 客員研究員
佐藤弘隆 (さとうひろたか)	立命館大学 特任助教
山本 峻平(やまもとしゅんぺい)	立命館大学 研修生
大菅直 (おおすがただし)	株式会社 光影堂 代表取締役
北本 朝展 (きたもとあさのぶ)	国立情報学研究所 教授
4. 研究課題の概要(300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)	
<p>戦後から現在まで、市街地は画一的な宅地開発や建築活動が進み、京都らしい町並み、景観は失われつつある。また、地域の景観形成の方針を考える上で、その現状や変化を分かりやすく客観的に伝える資料は重要であると考えられるが、戦後、高度経済成長以降の京都を取り巻く状況の変化は急激であり、その変化を地域住民が理解しやすい形でまとめられた資料は希少となっている。</p> <p>本研究は地域学習の観点から、デジタル・アーカイブされた京都市電データベースや近藤豊写真資料を活用し、古写真と現在の町並みを比較することで、地域の景観形成の歴史的な文脈を学習し、理解を深めることを支援する資料の収集とシステムの検討を行う。</p>	

5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

戦後から現在まで、市街地は画一的な宅地開発や建築活動が進み、京都らしい町並み、景観は失われつつある。また、地域の景観形成の方針を考える上で、その現状や変化を分かりやすく客観的に伝える資料は重要であると考えられるが、戦後、高度経済成長以降の京都を取り巻く状況の変化は急激であり、その変化を地域住民が理解しやすい形でまとめられた資料は希少となっている。

本研究は地域学習の観点から、デジタル・アーカイブされた京都市電データベースや近藤豊写真資料を活用し、古写真と現在の町並みを比較することで、地域の景観形成の歴史的な文脈を学習し、理解を深めることを支援する資料の収集とシステムの検討を行うものである。2020年度は、三条通に残る近代建築および鴨川運河に残る橋梁を対象に「KYOTO メモリーグラフ (開発者: 北本朝展)」のイベントを実施し、KYOTO メモグラの京都市電写真以外の古写真の適用等を検討した。さらに、廃線から60年を経過した京都市電堀川線 (北野線) を対象に古写真の現地同定作業調査を実施し、景観変化を京都市明細図 (長谷川家所蔵、資料館所蔵) と今昔写真を組み合わせることによって、地域学習により有用な資料を提示する方法を検討した。

6. 研究業績 (日本語以外に英語名称もあるものは、できるだけ日英両言語でご記入ください)

研究論文・研究発表等 (斜線: 今年度)

- ・ 高橋彰, 矢野桂司, 河角直美, 井上学, 大菅直, 佐藤弘隆, 北本朝展, “京都の町並み変化に関する地域学習支援システムの研究”立命館大学アート・リサーチセンター文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」研究拠点形成支援プログラム 研究プロジェクト 2020年度 成果発表会(立命館大学)2021.2.19
- ・ Akira Takahashi, Shumpei Yamamoto, Hiroataka Sato, Naomi Kawasumi, Manabu Inoue, Keiji Yano and Asanobu Kitamoto “Learning Method that Facilitates User Understanding of Changes in the Kyoto Townscape: Utilizing a Smartphone Application with the Kyoto City Tram and Bus Photograph Database” Proceedings of the International Cartographic Association, 2, 2019. (ICC 2019), Tokyo, Japan.pp1-8, <https://doi.org/10.5194/ica-proc-2-127-2019>
- ・ 高橋彰, 山本峻平, 佐藤弘隆, 河角直美, 井上学, 矢野桂司, 北本朝展“デジタルアーカイブ写真を活用した景観理解支援システムの研究—京都市電のデジタルアーカイブ写真を事例として—”日本建築学会, 第18回建築教育シンポジウム, 建築教育研究論文報告集, NO18, pp 35-41, 2018.11
- ・ 山本峻平, 高橋彰, 佐藤弘隆, 河角直美, 矢野桂司, 井上学, 北本朝展「古写真データベースのまちあるきへの活用」、日本地理学会発表要旨集 No93, 2018, 57頁
- ・ 山本峻平, 高橋彰, 佐藤弘隆, 河角直美, 矢野桂司, 井上学, 北本朝展「古写真データベースのまちあるきへの活用」、日本地理学会 2018年春季学術大会(東京学芸大学)2018.3
- ・ 高橋彰, 河角直美, 矢野桂司, 山路正憲, 山本峻平, 佐藤弘隆, 今村聡:「クラウドソーシングを活用した写真資料(古写真)の地理情報等の同定方法の検討とその課題—京都市電のデジタルアーカイブ写真を事例として—」, 地理情報システム学会講演論文集, Vol.27, pp.4, (CD-ROM)(2017)
- ・ 高橋彰, 矢野桂司, 高木良枝, 佐藤弘隆”第IV期京町家調査を用いた空き家化の要因に関する研究”日本建築学会大会学術梗概集, No.7148, pp401-402, (広島)2017.8
- ・ 山本峻平, 佐藤弘隆, 高橋彰, 河角直美, 井上学, 矢野桂司「デジタルアーカイブ写真のGIS化とその活用—「京都の鉄道・バス写真データベース」の構築—」, 人文科学とコンピュータシンポジウム論文集 Vol.2017No2, 2017, 199-206頁
- ・ 山本峻平, 佐藤弘隆, 高橋彰, 河角直美, 井上学, 矢野桂司「デジタルアーカイブ写真のGIS化とその活用—「京都の鉄道・バス写真データベース」の構築—」, じんもんこん 2017 人文科学とコンピュータシンポジウム(大阪市立大学)2017.12.10 ポスター発表

主催したイベント等

- ・ “近代建築 WEEK2020 スマホで三条まちなみの変遷発見ラリー”【主催】京都歴史文化施設クラスター実行委員会, 京の三条まちづくり協議会, NPO 法人京都景観フォーラム【協力】立命館大学アート・リサーチセンター, (一社)京都府建築士会まちづくり委員会, 2020.9.26
- ・ “スマホで鴨川運河”【主催】鴨川運河会議, 【協力】立命館大学アート・リサーチセンター, NPO 法人京都景観フォーラム, 2020.12.6

(様式)

- ・ “近代建築 WEEK2019 スマホで三条まちなみの変遷発見ラリー”【主催】京都歴史文化施設クラスター実行委員会, 京の三条まちづくり協議会, NPO 法人京都景観フォーラム【協力】立命館大学アート・リサーチセンター, ROIS-DS 人文学オープンデータ共同利用センター, (一社)京都府建築士会まちづくり委員会, 2019.9.28-29, 2019.10.5-6
- ・ 「KYOTO メモリーグラフ」の実証実験【実施日】(1回目)2018年10月21日(日)(2回目)2019年3月3日(日)まちづくりオープンキャンパス「同時開催イベント」として実施【参加者数】(1回目)23人(2回目)6人【共催団体】システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設 人文学オープンデータ共同利用センター、立命館大学アート・リサーチセンター、京都の鉄道・バスアーカイブ研究会、特定非営利活動法人京都景観フォーラム
- ・ KYOTO メモリーグラフ トークセッション【実施日】2018年10月21日16:00-18:00【来場者数】35名(実験参加者以外も聴講可能)【共催団体】システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設 人文学オープンデータ共同利用センター、立命館大学アート・リサーチセンター、京都の鉄道・バスアーカイブ研究会、特定非営利活動法人京都景観フォーラム
- ・ 市電の今昔写真と古写真パノラマ写真から京都の町並みの変遷をたどる展示会「今昔写真から見える京都の変遷 ～市電の音が聞こえる風景と現在～」【実施期間】2019年2月17日-25日(2月20日ギャラリートーク)【実施場所】ひと・まち交流館京都 1階展示コーナー【来場者数】826名【共催団体】立命館大学アート・リサーチセンター、京都の鉄道・バスアーカイブ研究会、特定非営利活動法人京都景観フォーラム
- ・ ギャラリートーク「今昔写真から見える京都の変遷 ～市電の音が聞こえる風景と現在～」【実施期間】2月20日19:00-20:30【実施場所】ひと・まち交流館京都 地下1階 ワークショップルーム【来場者数】46名【共催団体】立命館大学アート・リサーチセンター、京都の鉄道・バスアーカイブ研究会、特定非営利活動法人京都景観フォーラム

講演

- ・ 高橋彰, 中村浩史“京都市電写真アーカイブとその活用/KYOTO メモリーグラフ” 画像関連学会連合会 第6回秋季大会(京都工芸繊維大学) 2019.10(招待講演)
- ・ 高橋彰「記憶の継承プロジェクト～古写真アーカイブとその活用～」平成30年度住みよいまち&絆研究所 総会・研究フォーラム 2018年7月(招待講演)

メディア掲載等

- ・ 「市電の風景 スマホで変遷探る」2018年10月13日京都新聞朝刊
- ・ 「今昔写真から見える京都の変遷ー市電の音が聞こえる風景と現在」2019年2月20日京都新聞朝刊
- ・ 「市電に見る京の今昔」2019年2月25日京都新聞朝刊
- ・ 「鳥居撤去や道路拡幅・・・市電に見る京都の今昔 愛好家が写真展」2019年2月24日14時28分京都新聞WEB版
- ・ 「懐かし市電京の今昔」2019年2月25日読売新聞朝刊

競争的資金等(科研費を除く)

- ・ 高橋彰, 矢野桂司, 河角直美, 山路正憲, 佐藤弘隆, 山本峻平「メモリーハンティングを活用した戦後から現在の京都の景観変化に関する研究ー京都市電のデジタル・アーカイブ写真を事例としてー」2018年度情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設公募型共同研究「ROIS-DS-JOINT」,2018年6月26日～2019年3月31日, 研究代表

データベース等

- ・ 令和3年2月 京都の鉄道・バス 写真データベース公開・拡充 資料数約1900点⇒約18000点公開

平成30年2月「KYOTO メモリーグラフ」GooglePlayにて公開。平成31年9月三条通のプロジェクトを公開。
令和2年10月鴨川運河プロジェクト公開